

郵政法案否決及び衆議院解散についての会頭コメント
(2005年8月8日)

法案の中身については個々の点で賛否両論あったと思うが、旧国鉄、旧電電公社、道路公団のように民で出来ることは民でという大きな流れのなかで、この法案が否決されたことは残念に思う。

13年前に宮沢内閣から細川内閣に代わり、自民党単独政権体制が崩れて以来、今日まで政権与党は絶えず連立政権であった。この大事な時期に政治空白が出来ることは残念だが、今回の総選挙は日本の政党の政策をベースにした再編成を促進させれば、日本のためになるのではないか。

世界では社会保障費の増大に押しつぶされないために、小さな政府を目指して努力しているのに対し、日本だけはまだ和をもって尊しとする、弱者救済の大きな政府から抜け出せなかった。小泉首相はそれを変えようとこの4年間努力してこられたが、それが挫折したことは、日本にとっても非常に残念なことだと思う。我が国も小さな政府で、努力するものが報われる社会を目指すべきで、そのために今回の選挙は、政界のみならず、国民にとっても非常に大事な選挙になると思う。

京都商工会議所
会頭 村田純一